「おーい図書館」の活動

おーい図書館　青木和子

実は、最初から「図書館」に取り組もうと思った訳ではないのです。

学校の週休二日制を目前にした1992年、子どもたちが安心して過ごせる場が欲しいと思いました。しかし、千葉県松戸市に児童館は1館しかありません。そこで、小中学校のお子さんを持つ友人と共に近隣市の児童館を見学させてもらうことにしました。

児童館見学のはずが

当時、松戸市の人口は約46万人。訪れた市は松戸市の半数に満たない人口でしたが、児童館は5館ありました。見学した館は決して新しくはないけれど、子どもたちの自主的な活動をサポートする温かい心づかいを感じました。松戸にもこのような児童館が欲しいと思いましたが、松戸には小さいながらも図書館の分館が多数あるのだから、それを活用できないだろうかと思い至り、市立図書館本館を訪ねました。

その当時の図書館長は土木関係の部署から異動して間がない方で、「土木関係とは違って市民の訪問がほとんどないので、寂しかった」とおっしゃり、歓迎してくださいました。いろいろと話し合う中で、「図書館を知りたいのなら、よい図書館を見てみたらどうか？」との提案をいただきました。そして、松戸市所有のバスを手配してくださり、図書館見学ツアーが実現しました。友人を誘い、10人余で参加しました。見学先は浦安市立図書館など3館でした。

会の発足まで

このツアーで浦安市立図書館を訪れた全員が「目からウロコ」で、それまで持っていた図書館のイメージががらりと変わってしまいました。

参加者の感想をまとめて図書館へ届け、意見交換をしている中で、図書館の建て替え計画があることを知りました。松戸市長期総合計画の実施計画に盛り込まれていたのです。そうであるならば、図書館に関しては素人である私たちも勉強して提言などができるようになりたいと有志で話し合い、1993年1月に会を発足させました。

会の名称は、練馬区で児童館活動をしておられた関日奈子さんからいただいていた会報の「おーい児童館」という名称の「おーい」を使わせてもらえないかとお願いしたところ、快諾をいただきましたので、「おーい図書館」に決定しました。松戸市46万市民の多様なニーズに応えられる、市民のための図書館づくりを目指して、「おーい、理想的な図書館よ！」との思いを込めた命名です。

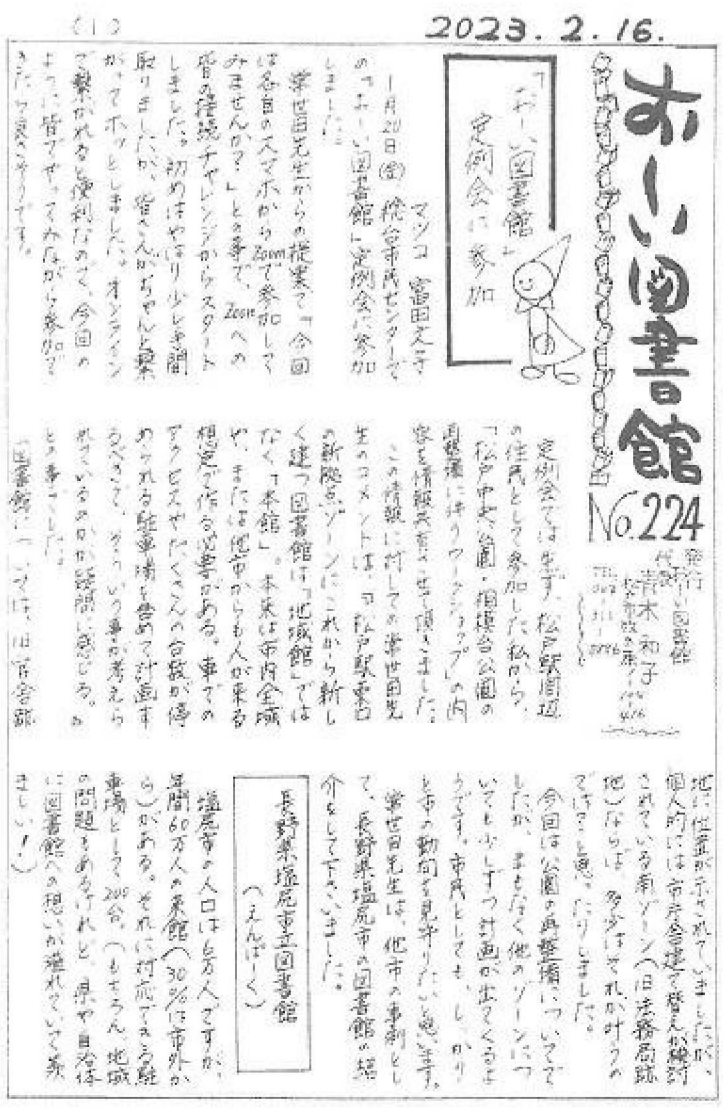
会報を届ける

少しずつでも会員を増やしたいと願って、発会と同時にささやかながら会報発行も始めました。会報名は勿論『おーい図書館』としました。配布先は、会員だけではなく、市議会議員、市役所の各部署、県内外の各地で図書館活動を続けておられる方々です。私たちの活動をお知らせし、思いを共有できる場を作りたいと考えて、不定期ですが発行を続け

ています。発会15周年には会報の合本を刊行し、現在224号に至っています。

「図書館は超党派で！」と思いますので、年４回開催される定例市議会の会期中には、全会派の議員へ会報を届け、本会議、各常任委員会、予算委員会、決算委員会の傍聴を、必要に応じて行っています。また、浦安市立図書館などの先進図書館見学にお誘いするなど、議員への働きかけは変わらずに続けています。そのような働きかけや講演会開催などの結果、会員になってくださる議員さんも超党派でおられます。

会報は、今に至るまで手書きです。私たちは「ガリ版刷り」の世代ですので、当然のこととして手書きで始めました。活字印刷でと思う瞬間もありましたが、「手書きは珍しいので、目立つ」「一目見て、すぐわかる」と言ってくださる方々（特に議員さん）がおられるので、「それなら…」と思って続けています。


2023. 2. 16.

おーい図書館 No.224

「おーい図書館」定例会に参加

マツコ 富田文子

1月20日(金) 浦安市民センターでの「おーい図書館」定例会に参加しました。

常世田先生からの提案で「今回は各自の入マボから Zoom で参加してみませんか？」とのお誘で、Zoom への皆さん接続チャレンジからスタートしました。初めはやはり少し手間取りましたが、皆さんがちゃんと繋がってホッとしました。オンラインで繋がれると便利なので、今回のように皆でやってみながら参加できたらと思うそうです。

定例会では先ず、松戸駅周辺の住民として参加した私から、「松戸中央公園・相模台公園の再整備に伴うワークショップ」の内容を情報共有させ頂きました。

この情報に対しての常世田先生のコメントは、「松戸駅東口の新開発ゾーンにこれから新しく建つ図書館は「地域館」ではなく「本館」。本来は市内全域や、または他市からも人が来る想定で作る必要がある。車でのアクセスやたくさんの台数が停められる駐車場を含めて計画するべきで、そういう事が考えられているのかが疑問に感じる。」とお話されました。

（図書館：（一つは、旧市会館地に住宅が示されていましたが、個人的には市庁舎建て替え検討されている南ゾーン（旧法務局跡地）ならば、多少はそれが叶うのではと思ったりしました。

今回は公園の再整備についてでしたが、まもなく他のゾーンについてもぼちぼち計画が出てくるようです。市民としても、しっかりと市の動向を見守りたい思います。

常世田先生は、他市の事例として、長野県塩尻市の図書館の紹介をして下さいました。

長野県塩尻市立図書館（えんぱーく）

塩尻市の人口は6万人ですが、周辺60万人の来館（30%は市外から）がある。それに対応できる駐車場として200台。（もちろん、地域の問題もあるけれど、県や自治体に図書館への想いが強くて素晴らしい！）

『おーい図書館』224号 2023.2

運営は試行錯誤しながら

会費は、当初から一貫して年間1,000円です。会員が少数の間は、ほとんど手渡ししていました。しかし会員が増えるにつれて、郵送やメールにせざるを得なくなりました。その頃、ある方の「市民運動はカンパを頼りにしがちだが、自前で資金調達する努力もすべきではないか」という提言を知り、納得させられました。私たちもその方向で努力したいと思い、本のバザーやDVDの上映会などを行いましたが、あまり収入は得られませんでした。

本来、「図書館は何でもあり」で守備範囲はとても広いと思っており、せっかくならば楽しく取り組みたいと考えていましたので、ミニ・コンサートなども何度か開催しました。準備の大変さなどはありましたが、開催までの過程で皆の気持ちがひとつになり、会員が増え、期待した以上の収入を得ることができました。結果的には、その時の蓄えがいまだに会費値上げを避けるための一助になっています。

図書館のあるべき姿を求めて

発会以来、30年が過ぎました。その間には議会や行政とのさまざまなやりとりもあり、私たち一般市民としては理解するのが難しいと思うようなことが次々と立ち塞がりました。まず「行政用語⇒お役所言葉」が分からず、閉口しました。市議会へ請願した際は「取り下げ」をすすめられたり、情報公開請求で出された書類は知りたい箇所が黒塗りだったりなど、得難い（！）経験もしました。どのような活動にも必ず障害は付いて回るものでしょうが、後になって振り返れば、何事も無駄な経験はないと今は思っています。

一つの運動を続けていると、否応なくさまざまなことにも目が向き、他の運動とも協力

関係が生まれます。私たちも市内の多様な市民団体と協力し合い、多くの団体との共催イベントとして「憲法記念日の集い」を20年来続けてきました。それは、これからも大事にしたいと思っています。図書館のあるべき姿も、拠って立つところは「日本国憲法」にあると考えていますので、それを忘れずに活動したいと思っています。

「としょかん文庫・友の会」との出会いは、15年ほど前に建築家の藤原孝一さんと一緒に菅原峻さんの事務所に伺ったことがきっかけでした。図書館と真摯に向き合う方々の姿勢に感銘を受け、少しだけお手伝い(一時期、世話人)をさせていただけたことが大変ありがたく、私の心の財産になっています。

(あおき　かずこ)